

学校だより 2月号

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

令和2年2月3日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です。



【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



ゴミをまたがない小谷っ子に

教頭 鈴木 聡

昨年の4月に小谷小に着任してから10か月。様々な場面で小谷っ子の素敵な姿に出会いました。今回はそのうちのいくつかを紹介したいと思います。

小谷小の階段の踊り場の手すりには、子どもがぶつかった時の衝撃を和らげるためのクッション材が取り付けられていますが、毎日階段を上り下りするたくさん子どもたちがそこに触れるため、剥がれて取れてしまうことがあります。ある日、職員室に戻った私の机の上に、取れてしまったクッション材の一部と、一枚の紙が置かれていました。その紙には、「教頭先生へ 取れてしまっていたので、つけようとしたけど、ダメでした。よろしくおねがいます。」と書かれていました。近くの先生に聞くと、ある女の子が届けてくれたそうです。その子が落ちているクッション材に気付き、拾い、何とか元の場所に貼り付けようと頑張っている様子が目に浮かび、私はとてもうれしい気持ちになりました。

また、同じく階段の踊り場に、「右側を歩きましょう」という表示が貼り付けられたカラーコーンが置かれています。ある日の休み時間の終わりに私が踊り場を通った時、その表示が取れて床に落ちていました。教室へ戻る子どもたちがある程度通過してから直そうと、しばらく待っていたところ、下から階段を上ってきたある女の子が落ちている表示に気付き、さっと拾ってカラーコーンの元の場所に貼り付けて、そのまま上の階へと去って行きました。それがあまりにも自然だったのでポカンとしてしまい、言葉をかけるタイミングを逸してしまいました。今でも思い出す度にその子への敬意と感謝の気持ちがよみがえってきます。

二人の行動が美しいのは、落ちているクッション材や表示に気付いて、見て見ぬふりをするのではなく、自分にできることをしてくれたところだと思います。誰かに言われてではなく、何の見返りも期待せず、ただ当たり前のこととして。

少し前に、「ゴミをまたぐな」という俳優・哀川翔さんの家訓が話題になりました。「落ちているゴミを見て素通りする人間ではなく、拾って捨てる人間になれ」という意味ですが、まさにこの二人は「ゴミをまたがない」立派な小谷っ子でした。(クッション材や表示はゴミではありませんが…) その時言えなかった「ありがとう」をこの場を借りて二人に伝えるとともに、「ゴミをまたがない」小谷っ子が一人でも多く見られることを願っています。



学校評価アンケート結果について

昨年12月にご依頼した学校評価アンケートでは、ご多用の中、多数の皆様にご協力いただき、ありがとうございます。ご回答いただいた結果につきましては、別紙のとおりでございます。「学校の様子発信」「学校公開の工夫」「分かりやすい授業づくり」「体験学習」「教育相談」等、高い評価をいただいた項目につきましては、今後も継続して実施してまいりたいと思います。一方で、「丁寧な言葉遣い」「学力の向上」「感謝の心」「あいさつ・返事」等は課題が残りました。どのような対策が必要か検討し、更に改善を図ってまいります。